

日中原子力協力代表者会議について

開催日： 1997年9月11日(木) 午後4時30分～6時

開催場所： 中国核工業総公司会議室

懇談内容：

- ・ 協力事項については、中国側から提案が出されると思われるが、日本側からは以下の点について意見交換、確認してはどうかと思われる。
- 1. 原子力発電分野
 - ・ 第10次5か年計画(2001年～2005年)における原子力発電の位置づけはどのようなになっているか。どの程度の基数が盛り込まれる見込みであるか。
 - * 中国の原子力発電開発計画では、2010年に2000万kW、2020年に4000～6000万kWが見込まれている。
 - ・ 原子力発電開発を進める場合の、電力工業部、核工業総公司、各省との分担はどのようなになっているか。
 - ・ 原子力発電開発計画を進める際、外国からの導入について、どのように考えているか。
 - * 米国とは、江沢民主席が本年10月に訪米、クリントン大統領が来年1月に訪中。日本とは、橋本総理が本年9月4日に訪中、李鵬首相が本年12月に訪日。
 - ・ 日本から原子力発電所を導入する可能性はどうか。また、その場合の課題としてどのようなことがあるか(国産化、融資、……)
 - ・ 中国では、火力発電所の建設にあたって、BOT方式のプロジェクトも進められているが、原子力発電所の建設にあたって、そのような動きはあるか。
 - * 第一号BOTプロジェクトは、来賓発電所(広西省、石炭火力、
 - * 35万kW×2)の入札が1995年12月8日に行われ、仏EDFグループが落札。

2. 核燃料サイクル分野

- ・ 中国の核燃料サイクルの政策・計画はどのようになっているか。最終的に使用済燃料はリサイクルするのか。

✓ * 再処理については、商業用施設（400～800t/年）を2010年頃に完成する予定（サイトは未定。関係者は600～700 t/年で経済性があると述べている。）。

3. 原子力発電安全分野

- ・ 中国は、種々のタイプ（自主開発、フラマトム型、ロシア型、CANDU）の原子炉を建設するが、安全に対する考え方はどのようになっているか。また、国際的安全条約に期待するものがあるか。（日本から導入するもの以外に）日本にどのようなことを期待するか。

4. その他

- ・ 中国における高速増殖炉、高温ガス炉の位置づけと開発計画はどのようになっているか。

* 中国の高速増殖炉は、実験炉（熱出力 65MW、21 世紀初めに完成を 予定）を建設中。

* 中国のモジュラー型試験炉、HTR-10（10MWt、1999 年春初臨界予定）は、建設中。

- ・ 中国政府の第 3 回地球温暖化防止条約締約国会議（COP3）への基本的考え方はどのようになっているか。

- ・ アジア地域の国が原子力発電開発を進めるにあたって、地域内での 協力分担の必要性、例えばアジアトム構想などが提案されているが、 中国はこれについてどう考えるか。

*印 は、伝えられている情報で、一部確認する。

以上